

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4072300355 | | |
| 法人名 | (有)野いちご | | |
| 事業所名 | グループホーム 野いちご | ユニット名 | |
| 所在地 | 八女市 矢原51-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年10月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年11月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F | | |
| 訪問調査日 | 平成28年10月26日 | 評価確定日 | 平成28年11月3日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>八女の静かな田園地域にあり、今を大切にという基本理念のもと 入居者が自分らしく尊厳を持ち、最後まで暮らしていけるグループホームを目指しています。地域の方々、入居者様 ご家族に支えられ温かい雰囲気なかゆっくりと四季を感じながらの生活は、何ものにも代えがたい事と考え その上で自分自身がホームの一員であるということ、ここが居場所なんだと置いていただけることを大切にしています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>“グループホーム野いちご”は開設から15年を迎えている。専務や主任を中心に地域連携を強化し、地域の中のグループホームの存在意義を模索するだけでなく、実際に行動し、地域の中に溶け込む取り組みを続けてこられた。ご利用者も一緒にゴミ拾いを行い、地域の方と挨拶を続ける中で、野菜の差し入れを頂くまでになられたり、市内の福祉施設との交流も積極的に行い、情報交換の機会を増やしてこられた。小学生向けに「認知症」を理解して頂くための資料を作成し、「認知症」を勉強する機会も作られた。日々の生活では、理念でもある「今」を大切にしたケアを行うために、ご利用者の寄り添いを続けており、ご利用者の表情を丁寧に観察し、思いを傾聴し、自己決定して頂ける支援を続けている。「図書館に行きたい」「自宅に帰りたい」「仏様参りをしたい」等を把握し、家族とも協力して叶えるように努めている。今後も更に、ご利用者の有する能力(できそうな能力)と要望を把握し、行動障害の原因分析の結果等も記録に残し、介護計画に活かしていく予定である。</p> |
|--|

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 基本理念に基づき、日常のケア、毎日の申し送り時、ミーティング、全体会議を通してその都度共有出来るシステムにしている。全体会議、勉強会(外部からの講師含む)、研修等で地域の中のGHという意識付けを念頭において、実践に繋げている。また、運営推進会議でも、幅広い意見を実践に繋げる努力を行っている。 | 馴染みの職員が多い中、新人職員にも理念を説明し、ご利用者の「1日1日を大切に『今』を大切に暮らし」等の実践に繋げている。体調などに応じて日々の役割を担って頂き、希望に応じて図書館にお連れしたり、地域のゴミ拾い等もして頂いている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、町内行事(道路愛護・不燃物回収・神社・公民館の草取り清掃等)に参加し、交流している。 | 主任を中心に地域連携を深めてこられ、専務も町内の総会等に参加している。散歩の時にゴミ拾いを行い、職員が河川敷の草取り等にも参加している。三河小学校の表現クラブの児童が来て下さり、認知症のお勉強と一緒にされたり、保育園児も踊りを披露して下さい。 | ホームが相談場所である事を新聞等で紹介している。今後も「地域の中のホームの存在意義」を地域の方に理解して頂きたいと考えており、地域の方に「認知症及び認知症ケア」等を説明する機会を作っていく予定である。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区の方への新聞を鳴して、認知症への理解・相談を常時出来る様にしている。慰問等で、認知症とは、特別なものではなく、病気である事を(誰しもありうる)理解して貰える様にしている。(小学生・保育園児・他) | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 実施した行事報告、予定、スタッフが日頃どういう事を行っているかを伝え、会議の中で参加者から、意見を聞き出来るだけ、よりよい、サービスに繋げる様にしている。 | 曜日を工夫したり、敬老会の日に会議を行う事で家族の参加も増えている。区長や民生委員、市の担当者や地域包括の職員も参加して下さい、ホームの取り組みを報告し、参加者からも色々な意見を頂いている。外部評価結果や職員の研修内容、行事報告も行っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議には、地域包括支援センターの職員共に毎回、参加して貰っている。特に地域との連携面では、当ホームから出向き相談をしている。他、必要に応じて連絡を取り協力をお互いしている。 | 市の方に“野いちご新聞”を渡している。主任が市を訪問し、疑問点の相談などを行っている。八女市のハザードマップも災害対策に活かし、防災ラジオも確認している。八女市の災害対策室からも台風の時期に連絡を頂くなど、八女市と共に防災対策を行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 高齢者虐待・身体拘束の勉強会・研修に参加している。身体拘束廃止を職員会議やケア会議等で、その都度伝え実施出来ている。玄関の施錠は、基本的に21時～6時までの間を防犯目的として行っている。 | 28年9月にも「身体拘束」の研修を受講し、伝達研修も行われた。ご利用者の不安の原因を知り、少しでも安心できる方法を検討している。転倒リスクの高い方は床の上に“すのこ”や布団を敷き、見守りを強化している。家族にも「身体拘束を行わない事」とリスクを伝え、理解して頂いている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止、身体拘束、人権等の研修に積極的に参加し会議等を通じ全職員に意識付けをしている。日頃から、入居者の全身状態の観察・確認を行い、気づいた時に随時報告、話し合いの場を持っている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 社会福祉協議会・市等の勉強会に出席し、必要時や将来に備えて連絡・相談体制を整えている。 | 権利擁護の制度に関する外部研修に参加し、伝達研修が行われている。両制度を利用している方がおられ、司法書士との情報交換もしている。説明用のパンフレットも準備し、主任等がサービスの必要性を検討している。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | その都度、説明を行い、御理解を頂いていると思う。 | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見・要望等を必要と思われる時には、ケアプランに反映しており、運営推進会議等で伝える必要があれば、そのような機軸を設けている。 | 入居の段階から、家族の思いや不安を傾聴している。入居後も担当職員がお便りを書き、家族に暮らしぶりを報告している。家族の来訪時や電話で要望を尋ねており、運営推進会議や敬老会等で家族同士が交流できる機会も作られている。 | |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1度は最低、全員参加の全体会議を開催し、意見や提案等が出易い様に各棟に分かれての棟会議も開催している。 | 専務、主任、管理者(リーダー)会議もあり、課題などを事前確認している。内容に応じて全体会議で検討し、衛生面や業務の改善点等を検討している。行事担当と別に、自主的な委員会活動(事故防止・美化衛生・接遇等)も行われ、職員間で情報共有をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 公休希望を聞く事により、資格取得や重要な勉強会・研修に行ける様にしている。また、子育て支援が出来る様な体制の努力は、行っている。 | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | 年齢・性別・学歴等で採用を断る事はなく、その職員が利用者の立場に立てる力量を重視している。個々の才能を伸ばせるスパンを長い目で捉えている。意見他ある時には出来るだけ取り入れ、希望休をほぼ予定通りに取得させ、社会参加も出来る様に配慮している。 | お人柄や思いやりの姿勢などを大切に採用している。職員の年齢幅は広く、個々の能力を發揮して頂いている。専務から職員に資格取得の話を行い、適宜、勤務調整や研修受講の機会も作られている。主任が個人面接を行い、個人の目標も確認している。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 人権擁護や、プライバシーの確保等のテーマは随時、勉強会や研修の機会を設けており、左記終了時にはレポートの提出を義務化している。更にホーム内での勉強会でも、教育の一環として、周知徹底する様にしている。 | 社長が企画し、「個人情報管理」等の研修を弁護士からして頂いた。ご利用者を人生の先輩として、日々の寄り添いを続けており、主任等から言葉遣い等の注意も行われている。“笑顔であいさつ”等の標語も複数掲示し、振り返りが行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々の勤務年数、レベルに応じたGH部会の研修、市や社共他 開催の研修会案内や参加要請にも積極的に自主参加をしている。毎月行う全体会議の中でも勉強会を必ず行っている。 | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 八女地区介護保険事業連絡協議会のGH部会を通じ、同業者間との情報交換や交流を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 個の生まれてからの歴史、基本情報をベースとし、身心の状態をアセスメントする。利用者にとって最良と思われる、環境、サービスの提供を受け入れられる様にしている。 | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の利用したい旨を詳細に聞き取り、困っている事、身心の状態、希望等をニーズと照らし合わせ、先ずは安心感を得られる様に真摯な態度で臨んでいる。GH利用は、ご家族・ご本人との共同作業にて、より快適な空間の提供に努めている。 | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 来訪時は、殆どが入居を決めた段階である。時にGH以外での選択肢はないかとの相談もあり、丁寧に社会的資源の活用を説明している。必要としている支援は、初期段階で詳細に聞き取りニーズと照らし合わせて、出来る限り適切なサービスに結び付けている。 | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活の中で、本人が出来る事は現存能力の範囲内で行って貰っている。日頃のコミュニケーションの中で可能な範囲を見極め、本当に必要な支援を選択している。過度な支援は、将来的に、本人の能力低下を導く物と思ひ、最小限で、適切な支援に取り組んでいる。 | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の絆を大切に考慮し、家族の面会、外出、自宅での無理の無い範囲内での宿泊を奨励している。家族と共に前に進む姿勢を重視し面会時間の制限は、基本的に行っていない。家族からの情報を、より良いケアに反映出来る様にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族や近所の方、昔からの馴染みの方が、来られた時には、出来るだけ、ゆっくりとして頂ける様な雰囲気でもてなしている。 | 日頃の会話の中で、馴染みの人や場所を把握している。ホーム周辺が自宅の方もおられ、散歩の時や受診時に知人の方にお会いし、ホームに来て頂けるように声かけしている。お友達の訪問もあり、リビングで過ごされている。自宅の写真を廊下に貼り、家族と一緒に会話されている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活空間での利用者間の関係を大切ににし、1人孤立しない様、スタッフが声掛けをしたり、複数で洗濯物たたみ、書字、簡単な調理手伝いを通じ会話を持つ様にしている。 | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所時にご家族・ご本人には、何かあった時には、連絡して下さいと伝え、機会があれば、遊びに来て貰う様伝えている。退所後も町で会った時には気軽に、お互い話しをしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者1人1人を個と捉え、本人の希望・意向に寄り添えるケアを検討している。真に必要なニーズの把握に常時努めている。 | 日々の会話の中で、「散歩に行きたい」「自宅に帰りたい」「買い物に行きたい」「仏様参りがしたい」等の要望を把握し、家族の協力も頂き、実現できるように努めている。意思疎通が難しい方も、些細な表情(顔色・血圧)の変化や仕草から、体調や気持ちの把握に努めている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所前のアセスメント段階で、これまで歩んで来た本人の生活歴を的確に把握している。ホーム内での、これからの暮らしがより良き方向に行く様に、より多くの情報を継続して本人及び家族から、聞く様にしている。それを元にケアに反映出来る様にしている。 | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントからの情報を元に、日常生活の中で本人が有している力を、記録に残し、多方面からの本人の身心の状態把握に努めている。情報の共有を重視している。 | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活で浮上してくる、課題は、その都度スタッフ間で話し合い十何に対応している。毎月の会議を利用し、利用者の暮らしのQOLが、より良い物になる様に、ケアの見直しを常時行っている。 | アセスメントや介護計画には、赤は要注意内容、青は頻度等、文字の色を変えている。主治医や看護師からのアドバイスも踏まえた計画となっており、日課表も作り、24時間全般のケアを記載している。 | 今後も引き続き、ご本人が「できる事」「できそうな事」「要望」「行動障害の原因」等をアセスメント用紙に増やしていく予定である。1表の「望む暮らし」も膨らませ、有する能力(潜在能力)を更に引き出していく予定である。 |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | スタッフ間での気づきやアイデアがある場合は、その都度話し合い、介護支援記録や引継ぎ帳等で記録に残している。統一されて、継続されるケアを共通認識の元、実践の場で活かしている。 | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 1人1人を個として捉え、個別ケアが出来る様に努めている。社会資源の中でも、馴染みのある関係を重視し、柔軟な対応が出来る様に心掛けている。 | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 静かで自然豊かな地域環境な為、散歩やドライブ等で四季を感じる事が出来る様に支援を行っている。慰問や実習生の受け入れ、小学校の行事参加には重点を置いている。 | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 基本的には、今までのかかりつけ医を継続して貰っている。何かあれば、家族に連絡している。 | 往診体制もあり、協力医療機関に変更される方もおられる。週数回の往診時を含め、24時間体制で医師に相談できる。職員の観察力も高まり、早期対応に繋げており、受診結果は家族と共有している。家族が通院介助された時も、不明点は医師に電話し、説明を聞く事ができている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の看護師訪問時に最新の情報の提供をしたり、相談をしている。又、かかりつけの医師や看護師に相談を行う事で、適切な受診、看護を受けられる様に支援を行っている。 | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 生活環境の変化による、身心の悪化を懸念し、利用者・家族・医師、医療関係者とも相談し、早期退院を促している。 | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時に重度化した場合等の対応については、必ず説明し、同意を得ている。その様な状況が見込まれる時に、再び何度もご家族と話し合いを行っている。 | 契約時に終末期等の意向確認が行われ、「最期までここで…」と希望される方も多い。ご利用者の状態が悪化した時は、日々揺らぐ家族の心に寄り添い、柔軟に対応するように努めている。夜間も主治医や看護師が来て下さり、点滴を受ける方もおられる。「今」を大切にケアが行われ、家族の協力も頂いている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年、消防本部へ、緊急処置の対応の講習を要請している。全体会議前に、全スタッフが対応出来る様に実技を学んでいる。AEDは常設している。 | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防本部から、署員派遣をして貰い年2回の夜間想定避難訓練を行っている。 | 夜間想定訓練時は、暗くした状況で行っている。自然災害対策も検討し、避難場所も含めて系列ホームとの協力体制ができている。地域の共同災害対策活動にも参加し、消防団も見学に来て下さっている。災害に備えて非常食等を準備しており、他の品物も検討中である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常時、言葉使いには留意している。言葉の乱れは、全ての大元になると注視している。丁寧に温かみのある言葉掛けをスタッフに促している。人生の荒波を経験された利用者に対して、プライバシーの確保、人格を尊重される、態度で臨む様に、管理賞が率先している。 | ご本人に応じた言葉を選び、語尾を柔らかくするように努めている。接遇委員会でも検討し、馴れ合いになっていないか等の振り返りを行っている。羞恥心への配慮で排泄時にはドアを閉め、膝掛けをかけた時、同性介助等の要望に応じている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者主体を重視し、勉強会、研修等で自己決定の大切さを学んでいる。時には、業務優先になりがちになる時には、ホームの「理念」を振り返り、スタッフ間で注意、疑問を持つ様に心掛けている。自己覚知を行い、利用者の思いや希望、自己決定に寄り添える資質を持つ様に、配慮している。 | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日常生活を送る上では、職員の業務優先は避ける様にして、利用者のペースや希望・要望等を出来るだけ汲み取る事を重視している。利用者、少しでも向き合える時間の確保を行い、談笑の中でも、さり気なく利用者の思いや希望等を聞き取る配慮をしている。 | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみ等ご自分で出来る方には、お任せしたり、確認をして、その人らしいコーディネートを考慮しながら、支援している。 | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理の過程で、少しでも参加や・お手伝い出来る利用者には協力をお願いしている。参加過程時には、昔話等を聞きながら談笑の元、自然な雰囲気の中で料理の完成を行っている。調理の過程での協力等を感謝の言葉と共に参加入居者には伝えて、次のステップに繋がる様に各自の食事の好み等を聞いている。 | ご利用者と一緒に買い物に行き、カートを押して野菜を選んで下さる。ホームの菜園で採れた野菜も使用し、旬の料理が作られている。ご利用者が皮むきと共に、箸を並べて下さり、お盆拭き等もして下さる。食事介助が必要な方もおられ、優しい介助が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分摂取量は記録に残し把握している。食事量の低下が見受けられる時には、本人の好きな物を食べて頂き、少しでも食欲が出る様な工夫をしている。 | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施し不十分な点、出来ない方には支援を行っている。希望者には、毎週1回の歯科往診の要望に応じている。 | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 出来るだけ、利用者個々の排泄介助を行い、排泄パターンを把握する様にしている。定期的な声掛けや、個々の排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄を心掛けている。 | 排泄チェック表があり、個別に応じた声かけをしており、パッドの大きさも個々に検討している。トイレでの排泄時は扉を閉めるなど、羞恥心への配慮もしている。布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝食時には、黄粉牛乳・オレンジジュース等を飲んで頂き自然な排泄を促している。又、。食事のメニューにも繊維物が多く含まれる物を取り入れている。日常生活の中で体が動かせる利用者には、リハビリの実施を行い、動かせない利用者にはROM等の対応を行っている。 | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 毎日午後からの入浴を行っているので、その範囲内で利用者個々の希望に添える様に心掛けている。上記以外の希望があれば、状況を観ながら、柔軟に対応出来る様にしている。 | 入浴時間や湯温などの要望に対応しており、体調に応じて2人介助をしている。入浴を好まれない方は原因を分析し、対応の方法を検討している。無理強いないように努めており、声かけも工夫している。入浴時は職員との会話を楽しみ、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者それぞれの、生活習慣や、ライフスタイルを考慮し、本人のペースで休息を入れて貰い、静かで安心出来る環境の元安眠出来る様にしている。不安要因は話しに傾聴する様にしている。 | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 主治医から、考えられる副作用については、スタッフ間で申し送りを行っている。特に下剤等の調整は、主治医との連携の元慎重に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1人1人の生活歴を勘案し、本人が持てる範囲内での役割を持って貰っている。小さな事でも終了時には感謝の意と称賛の言葉掛けを行っている。個々の楽しみが達成出来る様に支援を行い、気分転換に散歩やドライブ等を取り入れている。 | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節感を肌で感じられる様な外出行事を行ったり、お誕生日イベントで買い物と一緒にしたりしている。家族同伴の外出や外泊がある場合には、スムーズに外出出来る様に支援を行っている。 | 天気の良い日はホーム周辺の散歩をされている。化粧品や洋服等の買い物に出かけたり、誕生日のイベントで外食も楽しまれている。入居者の希望に応じて柳川の川下りや外食を楽しまれ、季節に応じてベンガウ村の温泉や季節の花見(桜や藤、コスモス等)に行かれている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人からの希望があれば、立替金から、本人に渡し使って頂ける様にはしている。 | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの要望があった時は、支援している。 | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各共同生活空間で、音、臭い、室温、光等、利用者を不要に刺激させない様に、適切な対応を行っている。臭いの面だけは、使用済の尿取りパット等は新聞紙に包んで処理をしている。散歩の時に摘んで来た花は、食卓テーブルや洗面上等に飾っている。 | 周囲は田園が広がり、季節の移ろいを感じる事ができる。リビングの天井は高く、圧迫感のない造りとなっている。車いすの方が増えた事もあり、畳の間をフローリングに改装している。1つのユニットはプーリー等の設備も導入し、両ユニット共にハビリの視点を大切にされている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 個々に配慮し、他利用者との交流の場を提供したり、独りになりたい時には、大切な時間と認識し、そうなれる様にしている。 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 出来るだけ、持参して頂ける様、入所時に伝えている。 | ベッドやタンス等を持ち込まれており、家族の写真や誕生日の色紙等が飾られている。お仏壇なども置かれ、ご利用者と一緒に水や赤飯等をお供えしている。希望により畳を敷いたり、心身状況に応じて電動ベッドの貸し出しも行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|----|--|--|-------------------|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 57 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している | 利用者個々で「出来る事」「わかる事」をスタッフが把握し、現存能力維持の為に継続したケアに努め、最小限の支援で、安全で自立した生活が、少しでも出来る様にしている。 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |